

校園長室から



学校教育目標

共に学び共に伸びる子ども

- ・いのちを大切にできる子ども
- ・だれとでも仲良く協力し合う子ども
- ・意欲をもち学習する子ども
- ・ねばり強くはたらく子ども

令和8年3月12日 第96号

縁

いよいよ卒業式が近づいてきました。

ややこしい話をすると、学校教育法施行規則第58条に「校長は、小学校の全課程を修了したと認められた者には、卒業証書を授与しなければならない」とあるため、卒業式が存在します。卒業式も正確には、「卒業証書授与式」ということになります。

さて、先日のご帰宅中に臨海線に出ようとすると赤信号につかりました。ぼおと信号が変わるのを待っていますと、目の前をマラソンの練習をしているのか、女性のランナーが目の前を横切ります。

その瞬間反射的に「〇〇さん」と、かつてお世話になった保護者の名前が出てきのですが、残念なことに私の車は古く、窓は自動ではなく手動でくるくると開きません。バタバタしているうちにランナーは、走り去ってしまいました。『まあ、見間違いかな』と自分を慰めて、変わった信号を確認して帰路につきました。

家に着いていつもの習慣でポストを開けると、夕刊紙に交じって、どこから住所を知ったのか、広告のはがきがたくさん。そのなかになまめかしい文字の手紙。

よくよく差出人を見ると、先ほど目の前の通ったかもしれない、かつての保護者の〇〇さんからの手紙。年賀状の交換は、かれこれ30年ぐらい続いているのですが、手紙ははじめて。

びっくりしました。手紙には、これまでの不思議な「縁」について書かれています、大感激。先日あった同窓会の写真を見て「若い」と言ってくださったのはサービスでしょうか。